令和3年6月15日

学校法人三幸学園
福岡ウェディングアンドブライダル専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 後藤 秀典

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 後藤 秀典 (アイ・ケイ・ケイ株式会社 ララシャンズ博多の森 支配人)
- ② 蔵立 孝 (株式会社木下写場 執行役員 人事部長)
- ③ 古代 綾花 (株式会社 YUFUINDEN 第1期ウェディングプランナー科卒業生)
- ④ 濱田 彩 (第5期ブライダルヘアメイクアンドドレス科卒業生)
- ⑤ 久芳 幸子 (有限会社西岡総業)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月15日 (会場 福岡ウェディングアンドブライダル専門学校 会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和2年度 学校法人 三幸学園 福岡ウェディングアンドブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 吉留 朝美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 後藤 秀典

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

・人間性を高める教育の実践

最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することができると考えている

・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各教科で重点教育目標を作成し、全教職員への共有を行うほか、教科会を実施することにより、教育の行き届きのきめ細やかさを図り、教育の質の向上を実現できるよう計画している。

② 学校関係者評価委員会コメント

後藤委員

コロナ禍での人材育成を従来通り行うことは大変難しいと感じることもあったが、WEB・オンラインで行う人材育成の方法も工夫次第で効果的であることを感じた。また、現場力としては、ITを活用できる能力をととも求めるようになった。社内でもIT技術を高めるために、新しくITに強い社員を採用する動きがあり、必要とされる人材輩出には、業界が求める現場力を捉える必要がある。学校が熱い想いで教育をされていることは現場にいる私たちの大きな刺激となる。これからもインターンシップの受け入れや教育活動には協力をしていきたい。

濱田委員

コロナ禍になり後輩たちの就職活動が厳しいと聞いている。自分も就職活動では大変な事が多かった。ブライダルはたくさんの業種や個性的な企業が多いので、先生方のご指導も大変だと思うが、就職指導をする先生方が就職活動において企業・業種別に受け方の特徴や受験対策をもっと分析・勉強が必

要だと思う。履歴書の書き方ひとつも企業によって求めるところが違い、好まれるスーツの着方も違うなど、学生時代にとっても苦勞をした。また指導スキルが先生によって差があってはならないと思う。コロナ禍で受験の仕方も大きく変わっているので、最新の就職活動状況を生徒の為にも情報収集してたくさんの後輩がブライダル業界で活躍する為の一步を確保して欲しいと思う。

私が就職活動をした時よりも今の在校生は、就職活動の受験報告書を見れたり、sankogateなどで気軽に求人票を検索できたり、WEBやITを利用した情報収集の方法や対策をできるような環境になっているが、先生方が生徒へ指導できるようにならないといけない為、大変だと思っていた。

専門学校では、入学してみて報連相の大切さ、手帳を持つことやオンオフの切り替えを学べて本当に良かったと思っている。会議に参加をしてみて、企業の方に学校運営の協力をしてもらったり、もらった意見から改善したりすることが毎年行われていることを卒業して初めて知った。在学中に先生方から聞く色々なことはとても勉強になっていた為、この場での意見が先生方から在校生の後輩へ活かされていくなれば意味があるし、今後も協力していきたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

教育理念「技能と心の調和」は三幸学園の教育の原点である。教育理念や人材育成像を学校内外に浸透していくことで学校の教育特徴を創りあげていく必要がある。ただし、生徒の変化、時代のニーズによって浸透させる方法は、検討していかなければならない。

② 今後の改善方策

人材育成についての業界のニーズを学校教育に反映させる取り組みが必要。特にコロナ禍による業界の変化や具体的な動きを捉える為にも教育課程編成委員会や企業様訪問機会を通して最新情報を把握することが必要だと考えている。

③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園のミッションを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」を掲げている。令和2年度より業界ニーズ・方向性に合わせたカリキュラム変更を行い、企業連携科目を多く設定している。即戦力となる人材を育成し、業界のニーズをより深く理解することを目的に、ウェディングプロジェクト・企業インターンシップなどの実践カリキュラムを中心に企業連携活動に積極的に参加している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

後藤委員

学校が課題としている企業理念や考え方の浸透は、私達もコロナ禍当初は難しいのではないかと感じたが、頻度を変えずにWEBで実施するように工夫をした。オンラインが充実したことで、昼礼は13時から在宅の方も出勤の方も一斉に行うことができた。また、会社代表や部署長からのメッセージを共有する時間がオンラインであれば定期的実施することができ、組織のトップの考え方に触れる機会を多く設定することができる。その部分ではオンラインを活用することによって逆に良くなったのではないかとも思う。また、考え方の浸透には、コミュニケーションの長さよりも頻度を多くした方が良いと思う。専門学校生のような今時の若い世代は特に時間が長くかかることは好まないのではないか。

蔵立委員

学校と同様で私達も企業理念などの考え方の浸透は、対面での指導でなければ難しいのではと感じたが、コロナ禍の早い段階で ZOOM を使用し、定期的に時間を決めて、的確に企業目的・こうあるべき姿を一斉に発信することが出来たことで、逆にアルバイト生まで企業目的・理念が浸透した。WEBは活用の仕方次第では、一斉に伝えることができ、対面での指導と変わらないと感じた。

濱田委員

教育理念や学校方針の理解は、入学する前の入試説明会や入学直後の新入生へ向けての研修などに力を入れて説明するとよく聞いている為、効果があると思う。自分も新入生への研修で聞いたことが今でも鮮明に残っている。また、就職指導や未来デザインプログラムなどの授業の中でも定期的に確認やクイズがあり、覚えることができた。卒業するまで定期的に覚える機会を作ってもらっていたと思う。また、教室など授業に差し支えなければ、掲示しても良いのではないか。目に入るところに掲示があるのは良いと思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・コロナ禍により教職員・生徒含めオンライン利用率が高くなっており、より IT を理解し利用する能力を求められている。
- ・コロナ禍においての学校運営や授業実施などにおいて、在宅勤務の理解や理解や著作物利用など新たに規則や関係法規の理解が求められるようになった。

② 今後の改善方策

- ・三幸学園全体でもITリテラシー向上の為の教職員研修の実施を予定している。
- ・全体会議や教科会議などで関連する規則や関連法規についての研修や勉強会など実施予定。

③ 特記事項

- ・令和2年度では、WEB会議やオンライン授業実施など、早期に着手し学校運営において定着を目指した。
- ・教職員・生徒の情報管理アプリ「sankogete」の利用率が促進された。

④ 学校関係者評価委員会コメント

古代委員

現在は学校でもWEBの授業などがあり、とても良い。接客の変化としては、昨年はコロナ禍であっても直接話をしたいというお客様が多く、対面で打合せを行ったが、今年度のコロナ禍では、WEBでの打合せを希望するお客様が多くなり、WEBを活用する力が必要になった。お客様自身がWEBの打合せに慣れてきており、以前よりも浸透してきていることが考えられる。そのため、お客様に合わせてGooglemeet・ZOOM・LINE電話等のツールを使い分けて打合せをしている。学生のうちから学べるのあれば、学びたかったとも思う。

蔵立委員

適切なWEBの使用については社内でも勉強した。写真の会社なので、ZOOMでMTGをする際、一番きれいに映っている人の表彰を行い、きれいに映るように工夫した。新入社員で映り方が悪い場合は上司より指導が入っていた。どのように映る方が見栄えがいいのか等、カメラマンがマニュアルを作成している。よければ、学校へマニュアルを共有するので、相手にどのように見えるかは、教職員の方々も学んだ方がよい。また、WEBを使用することで再度、コンプライアンスの見直しを行い、ビジネス版のZOOMに切り替え、セキュリティを強化した。確かにコンプライアンスや個人情報のやり取りや著作権などの社内での考え方は今までよりも厳しくなった。

濱田委員

Sankogateは使用する頻度が高く、在学中も使いやすかった。ただ掲載している検定問題の内容に不備があったのは良くなかった。また、当時は更新通知が遅いことがあり、不便なところもあった。全体で一斉に連絡するツールとして使用することができる専用アプリは、とても便利だった。自分自身が使用するSNSは、1番はLINE、2番目はインスタ、3番目はTikTok。Twitterは、ほとんど使用しない。今の学生くらいの年代はTwitterよりインスタの方が使用していると思う。姉妹校では、生徒専用インスタアカウントがあった。軽い連絡はそれで確認ができるので、そのような使用方法もあると思う。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限	4

に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・企業連携科目やインターンシップなどを通して、業界ニーズや方向性の変化を把握し、学校運営へ活かす取り組みに力を入れていく。
- ・生徒の資格取得や知識・技術向上などのより専門性が求められる中、教職員のさらなる指導力や対応力向上が課題となっている。

② 今後の改善方策

- ・令和3年度入学生よりカリキュラムを変更した。現場ニーズを捉えた企業連携科目を増やし、即戦力となるための学びを増やした。また、必要とされる人材像を捉え、学校生活指導へ活かせる取り組みを検討する。
- ・教科担当教員による専門性や技術力の授業力向上と担当教員間による授業内容の差を生まない為の授業の質の担保を目的に研修・教科会議や技術の手合わせを定期的実施する機会を増やした。

③ 特記事項

- ・令和2年年度のコロナ禍における授業実施については、オンライン授業を導入し、授業時間数は年度内にて履修完了できる環境を整えることができた。
- ・生徒へ実施した授業アンケートにおいて、例年と変わらない満足度を得ることができた。IT利用した学びのニーズを捉えることができ、授業形態においては、対面実施だけではなくオンライン利用を併用したハイブリット型授業の促進を検討していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

久芳委員

学校への登校の回数や滞在時間などが大きく変化したとのことだが、学校へ来る機会があるときの様子を見てみると、学生の皆さんの立ち居振る舞いや挨拶や清掃、校舎の使い方などはコロナ禍となる2年前と大きな変化は感じない。先日もエレベーターや階段で「どうぞ。」と譲って頂いたり、気持ちよく挨拶頂いたり、福岡地区の三幸学園姉妹校全体的にいつもと変わらない印象である。学校の関わりの頻度や時間で変化した様子はないため、登校した時の先生方の指導で校風や雰囲気伝わっているのではないかと感じる。

後藤委員

採用やインターンシップを受け入れる企業側からすると自主性・主体性が持てなければ、社内で使えないとレッテルを貼られる。特に気になるのは、マナーや立ち振る舞い、社会人リテラシーが不足している点である。これは、三幸学園の生徒だけではなく、大学卒業の新卒入社社員全般に見受けられる。仕事に対する考え方・人としての在り方、当たり前なことを当たり前に行うことを研修中に伝え、普段も指導をしている。社内で連絡をする際はLINEではなく、電話でするように伝えている。社内で上司に対してどうあるべきかを指導している。それは、お客様にも同じように態度に出ると考えている。以前、若い社員の対応について、お客様から大事なことをメールで済ませるのかとご指摘頂いたこともある。インターンシップでも指導はさせて頂くが、学校でも強化頂きたい。

蔵立委員

2021年度は、東京と九州で14名新卒採用を行ったが、ほとんど退職していない。例年は新入社員採用後3分の1は辞めていたが、退職後の生活不安からか、辞めない意識が強かったように感じる。最近の新卒採用の新入社員やインターンシップの学生の自主性が弱いことが非常に気になる。指示待ちがあまりにも多い。挨拶・お礼を伝える、自分から言って欲しいことを言えない。自分から動ける能力・資質を学生のうちから出来るように鍛えて欲しい。人材育成や指導はオンタイムでその場で指導することが大事だと考えている。あとの指導は伝わらないし意味がない。学校の先生方についてもその場ですぐに正して指導する力が必要だと感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・卒業後の就業状況の把握や社会人としての学びのニーズを捉えることは課題である。

② 今後の改善方策

・現場ニーズに対応した人材育成や学びに力を入れていく必要がある。企業様との連携科目を増やし

ていくことを検討する。

・卒業生サイトsankolinkの浸透の強化を引き続き行う。

③ 特記事項

・チーム担任制度の導入により、学生のサポート体制や相談窓口が増え、手厚いフォロー体制ができた。
・新カリキュラム導入にあたり、全国姉妹校一斉オンライン受講による企業様実施の授業が一部開始となる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

蔵立委員

退学などを相談する学生の方々とのコミュニケーションにWEB利用なども有効なのではないか。WEB ツールの方がコミュニケーションを取れやすい世代でもある。私たちの会社でも離職者が減った。予防したわけではないが、コロナ禍でのWEBでのつながりにより、例年より若い世代の社員とのコミュニケーション量が多くなったと感じる。

後藤委員

在校生の方の退学率低減の参考になるかはわからないが、新入社員が親御さんへ宛てて手紙を書く取り組み継続している。送っていることで、辞めなくなった時や辛くなった時などに親御さんからも応援してもらえる環境を創っている。専門学校などの学生には、親御様に学校行事に出席して頂ける環境があることがそのような機会につながるのではないか。親御様を巻き込むことも重要だと感じる。また、学校の教育活動に卒業生の方を巻き込むのはどうか。業界にいる卒業生からのアドバイスなども学校にいる学生の皆さんの為になるのではないか。学校行事等を同じように経験した卒業生に見てもらうことに意味があると思う。また、卒業後に業界を離れた方は、そこでブライダルの良さを改めて感じて頂けるのではないか。この業界のよさを改めて感じる機会になればまた業界に戻ってくることもあるかもしれない。業界にとっても人材確保、もしくはお客様としてブライダル業界の良さが伝わることは重要だと思う。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3

社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生への支援体制の強化は課題。
- ・業界理解を含め、早期キャリア教育として、中学校・高等学校との連携に力を入れていく。

② 今後の改善方策

- ・進路活動の早期化に伴い、中学生に向けた職業理解イベントを8月に開催予定。
- ・飛鳥未来さずな高等学校熊本キャンパスの生徒に向けて、職業理解授業として2か月に1回授業開催予定。
- ・hyper-QU アンケートを全学生対象で実施し、学習意欲や学校生活不安などの現状把握と対策を早期に行い、中途退学を防ぐ。

③ 特記事項

- ・コロナ禍によって求人減就職の就職支援制度とし、在籍延長し新卒求人を受験できる体制を整えた。
- ・緊急就学支援金を三幸学園全学生対象に1人当たり3万円の給付支援を行った。
- ・オンライン授業受講の為にインターネット環境が不十分な学生へ wi-fi ルーターの無料貸与を行った。
- ・卒業生の独立開業者に対して、三幸学園同窓会組織より「クーポン支援制度」として前払いクーポン10万円の買い取りを行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

古代委員

自分自身が入学を決めた理由が、卒業後の就職サポート制度があること。この制度があることで就職サポートがしっかりと受けられる安心感があり、入学を決めた。卒業して離職してもサポートがあることは、とてもありがたいし、重要だと思う。また、現在は現場で必要となった WEB のやり方等は、独学で学び、家族や卒業生同士で実践を行い、接客に取り入れた。もし学校で研修や学べる機会があればやってみたいと思った。また、自分自身の勉強の為に卒業後も学校行事等、是非参加したい。

濱田委員

卒業してからも就職サポートを受けられるとは思いますが、気軽に情報をもらえるツールとして、卒業生向け求人のサイトや採用情報がとれるツールやコンテンツがあるとありがたい。実際に卒業して転職活動をしている同級生やコロナ禍で職を失っている人がいる話も聞いている。先生に連絡をすることもできるが、気軽にできるともっと助かると思う。また、卒業してからも授業を受けて勉強しなおしたり、わからない事や質問したいことを母校に気軽にできたらいいなと思う。現場に出ると技術や対応などプロの先生に聞ける環境があるととても助かるし、困ったときは、母校の先生が一番頼りやすい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4

① 課題

- ・コロナ禍によるインターンシップ活動や海外研修が縮小・中止となり、学び方が大きく変わった。
- ・校舎内での感染対策実施の徹底と情報管理体制が重要となった。

② 今後の改善方策

- ・コロナ禍でも安全に学べるオンライン授業による不足時間分の補填や授業展開の準備を行った。
- ・コロナ禍での学校運営理解と感染対策実施における勉強会など継続実施が必要。
- ・教職員の救助法講習実施と避難訓練の実施を検討。

③ 特記事項

- ・2020年度より三幸学園福岡地区姉妹校共通した防災マップを各校情報管理アプリ「sankogete」へ掲載し、いつでも確認できる環境を整備した。

④学校関係者評価委員会コメント

久芳委員

コロナ禍になり、施設管理上も拭き掃除の仕上げ方やフィルター種類の変更や、二酸化炭素濃度計のご提案などをさせて頂いた。特に学校生活の中で消毒の徹底をされているため、消毒に関わる物品注文が多くなった。やはりこのご時世の為、保健所からの消毒指示がなくても消毒を実施するケースが発生した。罹患者や濃厚接触者の方が発生した際には、安心感を得て頂くために必要な時もある。実際に校内ですれ違う学生の一部の方が「あの教室は不安」「この施設は使用して大丈夫なのか」と話しているところに遭遇したこともある。以前に比べると消毒物品などが手に入るようになり費用も安価になっているため必要な時をご相談頂きたい。以前のこの会議にて意見したヒールマークやフックの破損についてはとても改善した。学校全体での指導改善とその後丁寧に使用していることがわかる。

濱田委員

コロナ禍の学校生活は国家試験や就職活動が不安だった。また、感染者が出た場合の対応などが不透明な状況は不安だった。友人が濃厚接触者になった時に自分自身が不安になったし、個人情報を守られているか、対処対応に不信感をもってしまおうと良くない。オンライン授業は実際に受けたが、座学の授業は問題ないと思うが、やはり実技実習の授業は実際に先生の技術確認を受けられる授業形態がよいと思う。特に国家試験の実技対策は対面での対策が良い。また、先生方の授業実施時の感染対策が違えば生徒は不安に思う。先生によって手指消毒のタイミングやマスク・フェイスシールド・手袋使用の違い、教材・道具の取り扱いなど細かな立ち居振る舞いが先生によって違うことがあり、個人の意識の問題かもしれないが、生徒は気になっていることを知っておいて頂きたい。

後藤委員

インターンシップ受け入れの当日人数も調整させて頂いている。現在は二酸化炭素計測器を事務所内に入れて、鳴らないように人数を調整している。A班・B班で人数を制限して出勤をしている。出来るだけ空気を回すようにしている為、各事務所に空気清浄機を3台ずつ追加購入している。とにかく初期投資が大変だったが、今は落ち着いている。研修などもWEB実施となることが多くなった。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・コロナ禍により大きく進路活動の動きが変化した。感染状況によりオープンキャンパスや進学相談会への参加が難しい場合は、オンラインを活用することが多くなっている。今後は、WEB や SNS 等の利用やオンライン配信やコミュニケーションの質の向上が重要となる。

② 今後の改善方策

・オンライン利用においても学校理解が進められるよう、質の改善を目指した研修や勉強会の実施を検討。
・保護者や高校の進路指導教員のオンライン利用による進路活動の理解を進められるよう、広報活動を展開する。

③ 特記事項

・福岡県専修学校各種学校協会のガイドラインに則り、AO入試実施時期を9月に変更し実施した。
・福岡県私学振興課主催同和研修での入試・面接実施内容を確認し、適切に面接を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

後藤委員

最近のコロナ禍の報道で業界不安を持つ高校生の方がいらっしゃることは理解できるが、現状ブライダルだけの業界だけが厳しいわけではないし、これから確実に駄目になる業界ではない。ブライダル業界希望の高校生の方々に伝えて頂きたいのは、結婚式のカタチは変わっていくと思うが、お二人の人生のメインイベントに携われるので、そのやりがいは大きい。また、ブライダル業界で得られる人間力は長い人生の中で役立つ人間力が身に付く。そこをアピールしていくのはどうか。礼儀・マナー等などの知識や技術は、接客業のトップクラスである。ブライダル業界から一時的に離れるようなことになったとしても、どこでも通用する人間性を身に付けることができる。

自分がどんな人間になりたいかを考えたときに、この学校で身に着けられることはとても大きい。ブライダル業界で活躍できる力はどこにでも通用するくらいの人間力が必要であり、現場では必ず身に着けることができると思う。

古代委員

自分自身はオープンキャンパスで体験することが一番楽しかった。オンラインでのオープンキャンパスなどで、在校生だけで業界の魅力が伝わり辛かったら、ブライダル業界で活躍しているこの業界で良かったと思っている卒業生も一緒に入って伝えるのはどうか。卒業生で手伝いたいと思っている人はたくさんいると思う。業界不安を感じる方は多いと思うが、コロナ禍でも人数を最小人数に押さえて

でも結婚式を挙げたいお客様が本当にたくさんいらっしゃる。そのため、コロナ禍では新郎新婦様のメンタルケアが重要だと感じており、その部分の勉強も必要だが、できるだけたくさんの方の希望を叶えたいと思っている。

濱田委員

コロナ禍だとやはりオンラインでのオープンキャンパスはとても良いと思う。特にインスタ LIVE は高校生にとっては、とても入りやすいし参加しようと思う。途中入退室がしやすく気軽なのはインスタ LIVE だと思うし、卒業生としてインスタ LIVE に参加してみても楽しかった。わいわいしている感じが学校生活のリアル感が伝わりやすくてよい。私自身が学校選びの際も在学中もわりとしっかりきっちりしている学校だと思っていた。他の専門学校よりも細やか・丁寧・テキパキしたそういう雰囲気好きな高校生にはいいと思う。在学中にオープンキャンパスのスタッフをしている時は、高校生に先生に聞けないことをこっそり聞かれることが重要で、在校生スタッフの役割だと思っていた。聞かれる内容は、辛いこと、大変なこと、辞める人はいるか、などマイナスなことを聞かれることが多い。共学の高校生からは、女子クラスの間人間関係が不安との相談もあった。回答としては、学校のルールは決められていることが良いことだし、先生と距離が近くて相談しやすいこと、入学してみたくさんの必要なことを学べていることなど実際の学校生活を伝えていた。今は、写真や動画などたくさんの方の学校生活のリアルな写真などを在校生スタッフが持っていると思うし、見せられるものは見せてあげると良いと思う。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

特になし

②今後の改善方策

・更なる法令遵守の推進。会議や掲示物等を通じて、全ての職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

③特記事項

・ホームページ等において情報公開している。(<https://www.sanko.ac.jp/disclosure/>)

④ 学校関係者評価委員会コメント

久芳委員

個人情報とは違つかもしれないが、役職者については、ZOOM や meets、LINE を活用している。指示の内容やグループ設定も工夫できる。クリーンメイトには LINE は使用させておらず、基本的なコミュニケーションは対面や電話で行うようにしている。生徒の皆さんの年齢で起こりがちな LINE で送るだけでコミュニケーションを済ませることはないようにしている。ただ、対面のみの場合は、言った言わないで、行き違いが発生する事象もあるため LINE 等は文字で残す利点もあり、使い方次第だと思っている。古典的ではあるが、連絡ノートなどを使用しており、文字で残すコミュニケーションも時には必要である。書く内容は業務連絡で、個人名などは扱わないことを前提で使用しているが、全員が見るものについては気を配る必要がある。

後藤委員

コンプライアンスという点では、在宅勤務を行うようになり情報の取り扱いが難しいと感じることはあった。現在社内では、Teams を利用している。Teams は使用する際の基準を設けて、又、使用する上

で適切に使えるかのテストを受けて合格した方から使用許可を出した。例年、コンプライアンスの試験はWEBで実施し、毎年継続して行っている。中には在宅をしている場合、公私の区別ができていないと社員アンケートがあったので、公私をしっかりと区別できるように社内での活用はTeamsの使用に移行した経緯もある。個人情報保護とは観点は違うが、個人が使用するSNS利用については、社会人としての倫理観が不足しているのではないかという指導もしている。この状況下においてSNSで不安をあおるようなことをアップしていないか、会食は社内では禁止しているが、プライベートでの立ち振る舞いもお客様に見られている意識を持ち続けているか等、指導している。個人での振る舞いでマイナスな情報流出が起らないよう社内でも意識向上が課題である。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・社会貢献・地域貢献の為、学校が参加可能なボランティアを検討。（行政との連携も検討）

③ 特記事項

・令和元年度 博多区専門学校ボランティア参加(秋のステージ博多、博多どんたく等のイベント参加)

博多区企業ボランティアプログラム参加

・令和2年度 実施なし ※新型コロナによりイベント中止多数

④ 学校関係者評価委員会コメント

濱田委員

もっと知りたいと思ったのは、LGBTの団体など、ブライダル関連での理解や知識が増えるようなボランティアなどはもっと取り組んでも良いと思う。在校生の時のイベントでの学校紹介ブースの運営や体験型の授業運営などのボランティアはやっていて楽しかった。例えば、小学校や中学校にボランティアで職業理解のイベントに参加することができたら嬉しいし、もっとブライダル業界に進みたいと思う子どもたちが増えて、将来的に入学につながることもあるかもしれない。子どもたちに説明するとなるとこちらも分るように説明する為、話し方を工夫する勉強になると思う。在校生時代は、たくさんの人に説明することや触れ合うのが、恥ずかしい気持ちがあったが、社会人になってからの接客を考えるととても勉強になった。地域の方々などの学校の好感度も上がるし、学校としてたくさん参加することは良いことだと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校行事やインターン生、卒業生など関わる機会から福岡ウェディングアンドブライダル専門学校で行われている生徒指導については、とても良いと感じている。コロナ禍となり、企業内でのニーズや人材育成の方

向性が変化しており、就職指導や生徒指導の在り方については、現場の教職員の方々の大変さを感じた。業界としても大変な中ではあるが、ブライダル業界を目指して入学してきている生徒のみなさんや保護者の方々の希望を叶えるためにも、最新の情報を持った就職指導や大きな世の中の変化に対応できる人材育成を頑張ってもらいたい。また、WEBやITを駆使した働き方となっており、この業界を目指す生徒のみなさんだけでなく教職員の皆さんも業界で必要となる技術や知識が変化してきていることを捉えてほしい。また、技術知識とともに人間性を重視する業界である為、社会人として必要な人間性を学ぶことが必要である。毎年、この会議で学校の教職員の方々の熱意に触れることができ、とても刺激を受けている。今後も学校での人材教育に協力をしていきたい。

以上